

出題分析		
試験時間 100 分	配点 学部により 400～700 点	大問数 4 題
分量（昨年比較）〔減少 同程度 増加 〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化〕
<p>【概評】</p> <p>昨年と同様に、記述問題中心の長文読解問題が 2 題、自由英作文付きの対話文読解問題が 1 題、和文英訳問題が 1 題という構成。大問 I、II、III では分量が増加、大問 IV については昨年と同程度の分量である。大問 I、II は、どちらも語彙レベルやテーマが標準的で読み進めやすい。大問 III は、入試では頻出の題材であった。大問 IV は整序英作文問題と和文英訳問題で構成されており、特に和文英訳問題の難易度が高かった。全体としては、昨年から分量が増加したものの、難易度にはさほど変化が見られなかった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 「大学教育の意義」	大学教育の性質や、そこから得られるスキルについて述べた英文である。昨年の大問 I と比べると英文の分量が増加している。難解な語彙・表現が比較的少なく、テーマも身近なものであるため読み進めやすい。設問形式は英文和訳、内容説明、空所補充、整序英作文など、例年と同様であった。問 6 は、本文を正確に読むことができているならばおそらく解答に迷うことはなかっただろう。	標準
II	長文読解問題 「健康における睡眠の重要性について」	難しい単語や構文はあまり多くなく、身近なテーマで書かれた比較的理解しやすい文章であった。今年度は昨年度に引き続き文補充問題が出題された。問 1 や問 2 の記述問題は、解答根拠となる箇所がわかりやすく、本文の内容が理解できていればさほど難しくはないだろう。一部決め手に欠ける設問が見られたものの、基本的には難しい単語や構文が使われているわけではないため、時間をかけず正確に解答したい。	やや易

設問別講評			
III	対話文読解問題 ＋自由英作文問題 「日本の観光公害」	教授と二人の学生による、観光公害とその影響についての会話を題材にした読解・自由英作文の融合問題である。問1は同義語選択問題。いずれも判断に迷う選択肢は少なかった。問2の自由英作文問題は、日本において観光公害に対しどういう取り組みができるかについて、自身の意見を2つの理由とともに60～80語程度の英文で論じる問題である。今年も昨年同様、主張を支持する理由を2つ挙げればよいものであったが、書く内容を思いつくのがやや難しいテーマだったかもしれない。難易度は総じて標準的であった。	標準
IV	和文英訳問題 古田徹也『いつもの言葉 を哲学する』より	和文中に引かれた下線部についての整序英作文問題2問と英訳問題1問が出題された。(1)、(3)が1行程、(2)が2行程の分量である。問1は前後の文脈に注目し、与えられた選択肢でどう表現するかがポイントとなった。問2は分量も長く、かつ表現しづらい日本語表現が多く含まれており、受験生にとって難しく感じる問題だったのではないだろうか。全体の難易度は難といって差し支えないだろう。	難

合格のための学習法

例年、一部の設問の出題形式に若干の変動があるものの、オーソドックスな下線部和訳、内容説明の問題は依然として出題されている。内容説明問題では、どの内容をどこまで盛り込むかをしっかり考えて記述しなければならないため、確かな記述力を養っておく必要がある。また、読解問題の英文に関しては、語彙・文法のレベルが標準的なものが多いが、やや抽象度の高いトピックの英文が出題される年もある。さまざまな英文を精読し、記述問題の演習を積んでおきたい。自由英作文に関しては、理由を複数挙げた上で、80語程度の簡単な英語でまとめる練習を定期的にこなしておこう。和文英訳問題対策としては、和文を読んで、そこから適切な英文の構成を考える特訓をしておきたい。また、英語に直すのが難しい日本語の表現を、自分の知っている英語表現でわかりやすく言い換える練習をしておきたい。